

よさのうみ福祉会 広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



2019年
3月1日
No.108

福祉よさのうみ

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>

祝 成人を 祝 う 会

新成人となられ、
おめでとうございます。



成人式を迎えられた
おめでとうございます。

夢織りの郷 つむぎ 管理者 池田 和裕

1月17日に夢織りの郷ハーモニホールにおきまして、与謝野エリア「成人を祝う会」が行われました。今年度のエリア内、成人者は茂籠珠莉さん(つむぎ)、広瀬なつみさん(つむぎ)、明尾千愛さん(いきいき)です。当日は茂籠さん、広瀬さんの2名(誕生日順)の方を新成人としてお祝いすることができました。明尾さんは残念ながらインフルエンザ罹患のため後日お祝いしました。当日は、袴やスーツに身を包み、利用者や職員、そしてご家族の方が見守るなか成人を祝う会が始まりました。小さい頃からの思い出の写真をスクリーンに映し出し、家族の方より「素敵な女性になってね」「大勢の人に支えられ20歳まで辿り着きましたね。これからは大人の階段を上っていきます。サポートします。一緒に頑張ってください」等、心温まるメッセージをいただきました。

支援学校でお世話になった先生方、卒業後頑張っている各事業所の作業班の職員からお祝いの言葉が伝えられ、成長を実感されたのではないのでしょうか。

最後に新成人の皆さんに各事業所の利用者たちからあたたかいメッセージが書かれた色紙と花束が贈られ、一人一人から成人になつての抱負を述べていただきました。これからの人生、いろいろなことがあると思いますが、楽しく、元気に一緒に過ごしていきたいと思います。

「おののーどいん班へ」

夢織りの郷 つむぎ

支援員 藤原 正人

にこにこ紹介



仕事大好き

夢織りの郷つむぎのにこにこ班は、就労継続B型事業で自閉症、知的障害の利用者が10名所属しています。作業は主に食

品と下請け作業です。食品作業ではポン菓子や袋入れ、世屋味噌の販売、リフレ農産加工所で製造されたジュースの販売。下請け作業ではおみくじの折り作業とおろし器の組み立てと冷蔵庫ポケットのシール貼り作業をおこなっています。また、毎週木曜日は与謝野町役場（加悦、野田川、岩滝）で、第3火曜日12時からは京丹後市にある丹後広域振興局で自主製品の販売会をおこなっています。「もっと給料やボーナスも欲しい。」「給料出たらレゴ買おうんだ。」と口にされることも多く、給料をととても楽しみにされています。

にこにこ班は利用者の年齢の幅が広いこともあり、作業のスピードの違いなど、利用者同士で揉めることもあります。お互い「こうするんだで」「次はこれをしようか？」など声を掛け合いながら作業もされます。仕事もお金を稼ぐことも大切に行っていますが通所して自分のペースで作業することを大切にしています。

にこにこ取り組み

にこにこ班の利用者は買い物や外食が大好き。班での取り組みの話し合いになるとみんなにこにこ。1人ずつに行きたい場所を聞いていきます。「マクドナルド」「ミップル」「マイン」と次々にお店の名前が出てきます。その中から多数決！今回はミップルに決まりました。昼食は「宮津で有名な『富田屋』はどう？」と職員が提案。「有名な場所」と聞いてみんな一斉に「そこにする！」となり、初めて宮津の「富田屋」に食事に行きました。カレーうどん、刺身定食、天ぷら定食など・味もお腹もにこにこ。大満足！ミップルでの買い物も何を買おうか・と考えるだけでにこにこで働いたお給料で好きな物を買う。好きな

物を買うために頑張って作業をする。もっと、みんなのにこにこ笑顔を増やしたいと感じました。



美味しい～（＾＾）

にこにこ成人式

1月17日に与謝野エリアの「成人を祝う会」をおこないました。今年、にこにこ班では1名が成人式を迎えられました。つむぎに通い出した頃は「作業をしましょうか？」と声を掛けても「いやんもん。作業しせん。」と言われていましたが、夢織りの郷や利用者たちにも徐々に慣れてきて、下請けのおみくじ作業ができるようになりました。おみくじのトンボ玉を1個入れることから始め、5個、10個と徐々に増やして作業をしていくうちに、「トンボ玉入れをします。」と自分から作業に向かうことができるようになりました。作業がとても早く丁寧。手先がすごく器用。

作業も掃除も自分がやると決めたことは最後までしっかりとやり遂げられます。いつまでもお互いを思い合い協力しながら温かい班であってほしいと思います。最近では作業に少し気持ちが向かない時がありますが、新成人となったこれから期待しています。



新成人へのプレゼント



成人おめでとう！

2018年度全職員研修

12月8日 セントラーレホテル京丹後にて開催

第1部

教育研修委員会 委員長 杉本 正和

本人にまなび、ねがいに立ち返る「発達保障の担い手としてのわたしたち」

金沢大学の河合隆平准教授に各地の実践エピソードを交えて講演いただきました。

◎本人の「ねがい」を大切にすること、とは？

・エピソード1

折れてしまった椅子の足をセロハンテープで直そうとするたかひこさん。納得するまで挑戦するたかひこさんを見守る職員集団。納得させられるのではなく自分で納得することの強さ。

・エピソード2

飲むことへのこだわりが強いまさおみさん。職員は「禁止するだけでは飲みたい気持ちに寄り添えていないのでは」と考えた。お茶会の時間を設けて一緒に飲むことを楽しむ時間を作った。

◎実践者として育つ、職員集団としての育ち合い

・ともに働く人たちの悩みや困難をなくす（見えにくくする）のではなく、「見えやすくする」「受けとめやすくすること」で、職員集団として、職場として成長、成熟

◎だれもが人間として大切にされる社会をつくる仕事

していくキツカケがそこに生まれてくる。「不足」「不十分」はマイナスではなく成長の芽。

「この子らに世の光を」あててやるうというあわれみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよみがきをかけて輝かそうというのである。「この子らを世の光に」である。この子らが、うまれながらに持っている人格発達を徹底的に保障せねばならぬということなのである。

糸賀一雄「福祉の思想」1968

この人びととともに生きようとしている人びとから放たれている糸賀一雄「福祉の道行き—命の輝く子どもたち」2013

【河合隆平氏】



金沢大学准教授、全国障害者問題研究会常任全国委員。専門は障害児教育学・教育史。著書に『発達保障ってなに？』『発達保障の道』など。

第2部



その日によって気分が違うのに「あなたはこれが好きでしょ」と決め付けられてしまう。

竹原ちひろ相談員(職員)



ただ楽しく過ごしたいんです。仕事をしたいです。

茂籠和枝さん
(夢織りの郷 つむぎ利用者)



僕の夢は一生懸命働いてお金をたくさんたためることです。そして東京へ行ってジャニーズに入ることです。

小國浩二さん
(峰山共同作業所 利用者)



障害を持っている子は相手が自分にとっていい人なのかそうでない人なのか敏感に察知します。そして大切に思ってくれている人には心を開くものです。

大山さち子さん(利用者家族)

研修に参加した職員の声(研修日誌から抜粋)

・ねがいに寄り添いかなえてあげられる存在でありたい。
・この研修に参加できなかった職員にもぜひとも聞かせてあげたい。
・当事者の話はストレートに心を打った。
・こういう研修をもっと増やしてほしい。
・自分自身の考えや実践を振り返らされる研修内容だった。
・この仕事に出会えたこと、とても幸せに感じます。
・仲間の発表のとき会場の雰囲気が一気に和やかになった。
・この研修が伝えたいこと、言葉では書けないけどすごく感じました。

河合氏講演レジュメの最終ページは「障害福祉の父」とされる糸賀一雄先生の著書からの引用文(2段目、6行目・15行目)で締めくくられています。私たちからこの光が放たれているでしょうか。仲間たちの命が輝いているように私たち職員も輝いているでしょうか。まずは仲間たちの放つ光を全身で受け止めることから始めましょう。

そうすれば自ずと自分からも光を放つはずです。私たちは、河合氏の講演を、発達保障の担い手としての「よさのうみ福祉会とその職員に向けられた熱いエール」と受けとめています。

続ベトナム訪問報告記(2018年12月)〈その4〉

理事長 青木 一博

12月ベトナム訪問の目的

私は昨年(2017年)の3月に続き12月、ベトナムを再訪問(2〜5日)しました。今回の訪問は、①ベトナム支援に長年かかわった4人のオレングジ村支援日本委員がベトナム枯葉剤被害者協会(VAVA)総会で表彰を受ける、②病院や寺院での枯葉剤被害の視察、③今年8月ベトナムで開催のイベント打ち合わせを目的とし、私は表彰者を含む7人の訪問団の一員として参加しました。

ベトナム訪問の目的と感想

ホーチミン市内ツーズー病院平和村には、数十人の枯葉剤被害障害児者が収容。通常の3倍ほどに頭部が肥大化した水頭症の子、両眼球のない全盲の子、両足ひざ下のない学童など、言葉も交わせない子たちが私達訪問者の手や衣服に触る姿に、戦争終結から40年以上経過してもなお続く化学兵器の残酷さむごさを改めて痛感しました。

孤児や障害児を養育する寺院で

キークワン寺(ホーチミン市)には、「かつて門前に捨てられていた赤ちゃん」が200人ほど(枯葉剤の影響と思われる障害を持つ子供が約半数)収容され、僧侶と職員、ボランティアが養育に当たっていました。子供たちの成長を見守るチュー住職が慈愛に満ちた表情で生後間もない二人の赤ちゃんを両腕に抱いて私達を迎え、館内を案内されました。チュー住職の姿が見えると、こどもたちが歓声を上げながら駆け寄ります。住職は子どもたちを抱きしめ、一人ひとり頼ずりされるなど全身で愛情を注がれました。「いろいろな人の恩を受けて、今の私がいる。これは私の報恩行」と仰ったチュー



枯葉剤被害障害児



キクアン寺で孤児たち一人ひとりに愛情を注ぐ管長

住職の言葉に深い感銘を受けました。

2018年8月実施イベントの成功に感謝

原爆の被害を受けた日本と枯葉剤被害に苦しむベトナム両国が今後も続く戦争の被害を告発し、8月10日オレングジデイ(ベトナム枯葉剤被害の日)を中心に、写真展やシンポジウム・日ベトチャリティ音楽祭を開催する計画が話し合われています。訪問3日目の12月5日、ホテルの一室にホーチミンオペラハウスの社長、有名なテレビキャスター、大学教授、ベト日友好協会、ベトナムアメリカ友好協会など9名と私達が参加、実質的な第一回目の実行委員会となりました。イベント成功に向けた積極的な発言を受け、続く夕食会での紹介と交流を深めました。このイベントに向け、日本側旅行社はツアーを組み今後日本から参加者を組織されます。

2月、ベトナム研修生が訪日

12月のベトナム訪問を受け、日本政府の「対日理解促進交流プログラム」事業の招待でベトナムオ

レングジ村関係者6人が来日(2月12〜19)。15日と16日に与謝野町を訪問され、与謝の海支援学校、リフレかやの里、やすらの里などを視察されました。

ベトナム枯葉剤被害者協会によると、ベトナム戦争終結から40年以上たった今でも枯れ葉剤被害の原因とみられる障害者がベトナム全土に300万人、職業訓練を受けた人は数%に過ぎず、100万人が未就労で貧困にあえいでいると言われています。

ベトナムのハノイ、ダナンに続きホーチミン市郊外に被害障害者の自立訓練、養育施設を作るオレングジ村の建設に向けた取り組みは一步一步進んでいます。日本が蓄積してきた障害者自立支援や職業訓練の方法はベトナムでも必ず役に立つと言われており、きょうされんはじめよさのうみ福祉会として、これからも可能な支援をおこないます。



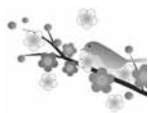
リフレで研修するベトナム訪問団

『親の心』

「成長」

峰山共同作業所・みねやま作業所・
ゆうゆう作業所入所者親の会

会長 中川ひとみ



支援学校の卒業式の翌日から作業所にお世話になって、もうすぐ2年が経とうとしています。

小さい頃は、行方がわからなくなり探し回ったということが何度もあるなど、じつとしていられず「どうしてできないの」と、家族から怒られていた我が子。

そのせいか学校の先生に「自分に自信が持てていない」と、教えていただいたことがありました。そこから先生方の指導により、自分に自信がもてるようになってきて、自分の思いを少しですが伝えることができるようになって、チャレンジする心ができてきたと思います。

作業所では、資源回収、空き

缶作業を頑張ると言っていました。その言葉どおり、心の支えのマスクをして頑張っています。朝の送迎車が来ると自宅から新聞など資源回収の物を持って乗り込み、張り切って通所しています。

仕事は頑張っているようですが、取り組みや行事となると何度も予定表で確認し、楽しみにしすぎてドキドキ感があふれ出てしまうことも。いろいろな時もあります。そんな時も職員の方々のサポートをいただき、毎日楽しく通所することができています。感謝でいっぱいです。

これからも仕事、そして行事に楽しく取り組みめるようになってほしいと思います。

宮津新ホーム、建設工事は順調です

Vol.4

ホームすみれ
主任 濃野 暁生

綺麗な緑の外壁に真新しいサッシがはめ込まれたばかりの宮津新ホームでは、玄関口で、いっしょに工事関係者が忙しなく行き来し、大きなトラックが迎え入れられています。いよいよエレベーターが設置されるのです。

このグループホームは、ふだんから車椅子で生活される方も安全に過ごせるよう、バリアフリーになっています。1階と2階をつなぐエレベーターは、このホームにとってなくてはならない存在なのです。そして、肝心の居室。こちらにも収



エレベーターのドアが入りました

納スペースが確保され部屋らしくなっています。一階居室の扉は、電動車椅子の方が足を掛けて開くことができます。ちよつとした所にも、これまでの不便に対する配慮がほどこされています。

ホームすみれの隣で着実に完成へと近づく新ホームを眺めながら日々思うことは、完成後のことです。入居される方々にとって「安心」を感じ取る暮らしの場にしなければ！と。恵まれた環境と確かな支援技術。この先には利用者さんの笑顔があるはず。

設計の段階からいろいろな想定のもと、工夫を凝らしたバリアフリーを考えていただいた設計士さん、資金づくりにご協力いただいた地域の皆様、それを支えた職員一同、そして完成を今か今かと待ち望んでおられる入居予定の方々。たくさんさんの想いが詰まって間もなく宮津新ホームは完成します！

わいわいがやがや お食事会！

手づくり教室も開催！

カフェ・シヨップ花鈴

菜の花ホーム 管理者 尾上 真由美



「カフェ・シヨップ花鈴」では、与謝野町介護予防・日常生活支援事業の委託を受け、「食事会」を月2回「手づくり教室」を月1回開催しています。

事業は高齢の要支援1、2の方が対象ですがそれ以外の方の参加もOKです。

食事は、毎回5名〜10名の参加者。岩滝地区の方が多く、顔見知りの方がほとんどです。食事はリフレかやの里からお取り寄せ。「リフレのばら寿司食べたかったんや。車がないとなかなか行けへんし嬉しい」と大好評です。「二人家で食べるのはさびしいし、みんなとおしゃべりしながら食べるのは楽しいわあ」との声も。

手づくり教室は、先生に来ていただき、2時間程度で仕上がる作品を作っています。みなさん高齢になられても手先が器用で驚きます。手を動かすことで老化予防の効果もあるのです。

2つの取り組みを通し、歳はとって「楽しみを見つけた」「人と繋がりたい」という思いをひしひしと感じています。参加者は80歳以上の方が多いのですが、毎回パワーをもらっています。

ご家族の思いや、仲間の笑顔があるから頑張れます

「いつまでも続けられる仕事ですね」

私がよさのうみ福祉会に入ったきっかけは、知人に紹介された野田川共同作業所での夢かご弁当のアルバイトでした。

その後、支援センターろむで勤務をすることになり、生活介護や児童日中一時支援を中心に関わりながらあつという間に7年が過ぎました。

小学生だった長女も4月から専門学校へ。三姉妹の子育ての経験はこの仕事をする上で、とても役に立っていると思います。

ろむで勤務し始めた頃、医療的ケアが必要な仲間がショートステイをしなければならぬ状況になりました。

その頃は、まだ病院でのショートステイ制度がなかったため、両親も悩んでおられました。そこで看護師資格を持っていた私が胃瘻注入をお引き受けし、相談支援事

リレー随想



障害児(者)多機能型生活支援センターろむ

主 任 河邊 晴美

業所と連携して、ろむでのショートステイを実現することができました。

ご家族からは『胃瘻になって初めてショートステイが出来ました』と、とても感謝をしていたきました。

その後、ご家族や関係者の方々の活動により京都府北部の病院で、医療的ケアの必要な方が利用できるショートステイ制度が確立されました。『我が子だけでなく、みなさんにもより良い支援を』この思いは多くのご家族から聞く機会があります。ご家族の思いを知り、仲間の笑顔を見るたびに私も何か協力できたらと思います。

次回は

夢織りの郷 つむぎ

主任 寺内大輔です。

ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。

2018年12月27日～2019年2月3日

(順不同・敬称略)

井上 隆	井笹立子
大西祥之	浦島久美子
白須宗明	松井沢美
高岡弘安	萩原 晶
篠竹 清	小田弘子
辻村典昭	古板貴光
佐々木明雅	濱中智志
霜尾充範	片岡正志
田中喜代子	小倉千明
小牧みゆき	小倉孝之
戸田幸弘	奥野文雄
櫻井健治	西垣幸子
河邊祐子	米谷敏郎
杉本麻衣子	田中 茂
堀井弘一	大泉邦暉
平井弘美	藤原道子
宇都宮綾	尾上真由美
小長谷たまゑ	西原勇介
品川恵子	側田良孝
杉本正和	萩野典子
三宅真奈美	濱野正夫
佐野恵理子	下野マツ

伊根町社会福祉協議会

上山倫子

第一生命労働組合京都総合営業職支部

峰山共同作業所・みねやま作業所・

ゆうゆう作業所・ろむを支える会

会長 堀江正己

宮津・伊根地域の作業所を支える会

会長 吉田悦男

その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

編集後記

今年よさのうみ福祉会では8名の方が成人式を迎えられました。心よりお祝い申し上げます。

▼「この冬は暖冬らしいよ」と言われ始めた2018年秋。その予告どおり、1月下旬になってもちらつと雪が降った程度で丹後の冬らしい景色は見られません。丹後の冬景色。わたしのイメージでは、広大な田んぼの上が一面銀世界になりキラキラ輝いている光景。みなさんは「丹後の冬」から思い浮かべる事柄はどんなものがありますか？▼子供の頃はたくさん雪が降り凍てついた田んぼの上を歩いて登校、途中足が雪に埋まってしまつて(丹後弁で「ふんごむ」と言いますね)、皆で救出するという楽しい思い出があります。子供の頃は楽しかった雪も、大人になると雪掻きの大変さや寒さから、冬がイヤになる方が多いかと思えます。▼子供の頃はあんなに高くこげたブランコが、ある時急に怖くなってしまつて、大人になるってある意味自分の世界を狭めてしまうことかもしれない。▼新成人を迎えた未来ある若者が自分の枠にとらわれず可能性を広げて「大人」として活躍されることを願います。(お)

新成人から一言

よさのうみ福祉会利用者全体では、今年8名の新成人がおられます。今回はその中から代表で7名の方に出ていただきました。

「作業所大好き！仕事大好き！」



みねやま作業所

中川 一輝さん

「僕はみねやま作業所で資源回収と空き缶つぶしをがんばっています。作業所が大好きです。4月の自治会選挙で会長に立候補して当選しました。行事の司会をしたりがんばっています。1月に20才になりました。大人ってなにかなあ？そうだと大人は仕事！僕は仕事が大好き！仕事を頑張ってカッコいい大人になりたいです。」

「ぼくは、将来嵐になる!!」



支援センター

ろむ 吉岡 朗さん

ぼくは、今さらりの2年生です。日中一時と交流したり、一日おでかけをしたり、ごはんを作って食べるのが、楽しいです。ぼくの夢は6人目の嵐になることです。歌とダンスと振り付けを一生懸命がんばって嵐のメンバーになりたいです。そして、カッコいい大人になります。

「夢は、一人旅行!!」



支援センター

ろむ 柴山 裕貴さん

ぼくは、電車で旅行に行くのが好きです。お母さんといっしょに行きます。これからお仕事がんばります。給料をたくさんもらいたいです。一生懸命がんばって、旅行に行きたいです。広島城が見たいです。

「『好き』を増やします!」



夢織りの郷

つむぎ 広瀬 なつみさん

「夢織り好き!」全体会好き!です。通所後に行われる朝の全体会では時間になるとホールに行かれます。嫌いなことは「嫌い!」と言われますが少しずつ「好き!」が増えるといいね。

「ハタチの決意!!」



伊根の里

糸井 長陽さん

僕は支援学校を卒業して伊根の里に来ました。はじめは何をやっているのかよくわからなかったけど少しずつみんなにも慣れてきて仕事のやり方もわかってきました。これから頑張りたいと思います。今日成人式を迎えることができて本当に嬉しいです。

「私の抱負」



夢織りの郷

つむぎ 茂籠 珠莉さん

晴れて新成人になることができました!大人の仲間入りという事で、これからは仕事をさらに頑張っていきたいなと思っています。そして、大人の仲間入りをしたからには、カッコいい男性に出会って素敵な恋愛もしてみたいなあと思っています。これからも皆さんよろしく願います♪

「わたしのゆめ」



夢織りの郷

いきいき 明尾 千愛さん

『いきいき』で、お弁当箱の下請けやペットボトルのリサイクルの仕事をしています。歌や踊りが大好きでけん玉が得意です。『仕事や全体会の司会・班での給食のメニュー書きを頑張ります。給料がいっぱいほしいです。』ゆめはこれからみつげたいと思います♪

夢いっぱい フリーマーケットのお知らせ

☆日 時/4月14日(日) 雨天時は、4月21日(日)に順延

☆会 場/野田川わーくばる横(多目的広場)

◎掘り出し物がどっさり、模擬店もあります。

◎出店者及びボランティア募集しています。

問い合わせ ☎0772-43-0380 夢織りの郷
担当 長島